

第2回

CHANEL

シャネルはなぜ憧れであり続けるのか?

時代や流行に左右されることなく、生き続けるシャネルらしさ。たとえば私たち世代の欲しいものリストに必ず挙がるシャネルのジャケット。20代のときからの憧れを、満を持して手に入れることができるのも、その不变さのおかげです。

撮影／長峯正幸(人物)、金子吉輝(静物) スタイリスト／橋本早苗 ヘア・メーク／キクチタダシ 取材・文／柳麻実 細字はバッヂのサイズは縦=H、横=W、マチ=Dです。

シャネルのジャケットの秘密

丁寧なハンドステッチによるブレード(縫取り)は代名詞的存在。



中野香織

服飾史家・コラムニスト。東京大学卒業後、同大学院博士課程単位取得。英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て執筆活動に。著書に『スープの神話』(文春新書)『モードの方程式』(新潮社)

袖口のボタンが外せ、たとえばブレスレットをしたままの着脱も可。

ホンモノって何だろうと考えるときに、思ひ浮かぶのがシャネルである。ツイードにエーン付きバッグ、カメリアにリトルブラックドレス、香水「N°5」……。シャネルのアイコンであるこうしたアイテムの由来を語つていけば、シャネルその人が浮き上がる。一風変わった出自や華やかな恋愛や社交、大胆な行動力と自由で反抗的な考え方。作品とデザイナーの人生がこれほど強力に結びついているブランドがほかにあろうか。

比類ない一人の女のオリジナルな人生まるごとから生まれたものだからこそ、誰にもまねのできない「ホンモノ」になつた。だからシャネルはコピーされても「称賛の証し」と平然としていた。自己流を貫いて勝ちえた本物の自信。

その「ホンモノ」感の格を上げているのは、デザイナーにして企業家にしてモデルにして広報という元祖スーパー・セレブだったマドモアゼル・シャネルの、パトロン精神であるように見える。ピカソ、ダリ、ストラヴィンスキイにディエギレフ……とあらゆる分野の芸術家を陰

とまあ、いろんな物語を知つたうえで、現デザイナー、ラガーフェルドの言うように、「尊敬しそぎることなく、少しだけユーモアのセンスを加えて」シャネルと付き合つのが、現代のホンモノな女の態度でありましょうか。

の「デリュ」に金銀細工の「ゴッサンス」。また、長い歴史をもつボルドーの「シャトー・ローラン・セグラ」も、しばらく低迷していたが、シャネルのオーナーが所有することで名声をとりもどしたワインである。

偉大なるオリジナル「シャネル」

中野香織

シャネルの進化するブランドSTORY



シャネルスーツを着たココ・シャネル。その思想は最新作にも綿々と受け継がれている。
ROGER-VIOLET /ORION PRESS

2005-6年秋冬コレクション会場を訪れたグウィネス・パルトロウとカール・ラガーフェルド。
RINDOFF-BORDE /SIPA PRESS/ORION PRESS



ガブリエル・シャネル(愛称ココ)は1910年、27歳のときに帽子店を開く。フレルやコルセットに飽きた女性たちは、その後クチュール・ビジネスに進出した彼女が作りだすジャージー素材の服など、シンプルかつナチュラルなスタイルに魅了される。多彩な人脉と交流しつつ、香水「CHANEL N°5」を発表し、舞台衣装など活躍の場を広げる。一時ハリウッドにも赴くが、パリに戻り、戦争を経て、「54年にカムバックのコレクションを発表。これがアメリカで

表され、ツイードのスーツに代用される「シャネルのルック」は単にモードだけでなくライフスタイルとして受け入れられる。'71年に亡くなるまで、アーティストとして、職人として働き続けた。'83年、主催デザイナーに迎えられたカール・ラガーフェルドがシャネルの精神的遺産を発展。時代を超えた彼女のエレメントは、カールの手によって、その時代のエスプリに姿を変え、毎シーズンのコレクションの中で生き生きと存在し続いている。

注目され、ツイードのスーツに代用される「シャネルのルック」は単にモードだけでなくライフスタイルとして受け入れられる。'71年に亡くなるまで、アーティストとして、職人として働き続けた。'83年、主催デザイナーに迎えられたカール・ラガーフェルドがシャネルの精神的遺産を発展。時代を超えた彼女のエレメントは、カールの手によって、その時代のエス